

新型インフルエンザ対策におけるサーベイランスシステムの 抽出された課題について

1. これまでの経緯と背景

新型インフルエンザ対策（フェーズ4以降）におけるサーベイランスシステムについては、行動計画に基づき平成19年3月に策定されたガイドラインに、9つのシステムが明記されている。しかしながら、十分な議論が終了しているわけではなく、また既存の感染症サーベイランスシステム（NESID）を活用できるものについては、各関係機関における推進が行われたが、一部のものは、実際のシステムが稼働できる状態にはない。

7月に開催されたワーキンググループでは、これらの進捗情報を交換するとともに、サーベイランスシステム別、関係機関別の課題の抽出が行われた。

2. 課題

（1）我が国における新型インフルエンザ基本戦略に基づくサーベイランスシステムの目的の明確化

- ① 基本戦略の実施に際し不可欠な情報・データを明確化することが必要であり、このためには、まず全体戦略を明確化する必要がある
- ② そのうえで、各システムの目的を確立し、それに合致した各情報・データを収集するためのサーベイランスシステムを検討する
- ③ 関係機関と各サーベイランスシステムの目的を共有し、協力体制を確立する

（2）個別のシステムにおける課題の解決

- 疑い症例調査支援システムの充実
- 診断・検査・ウイルス学的サーベイランスに関する体制整備
- 各自治体、医療機関におけるデータ入力の負担軽減・作業継続のための方策
- 各自治体レベルでのサーベイランスシステムに関する訓練の実施

（3）効率的なサーベイランスシステムのためのプラン策定

- ① 短期プランの策定
基本戦略・施策決定のために必要な情報を収集するため、現存するシステムを最大限活用し、効率的なサーベイランスを行うためのプランを検討する
- ② 長期プランの策定
新型インフルエンザ対策推進のために新たに構築する必要があるシステムについて検討するとともに、それらを新興再興感染症対策全体に応用出来るよう、プランを検討する